

# 事業報告書

(令和4年度)

学校法人 智香寺学園

# 目 次

## 1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 設置している学校・学部・学科等	1
(3) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(4) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況	
③ 教員	
④ 職員	

## 2. 事業の概要

(1) 令和4年度事業の概要・実施状況	3
---------------------	---

### 大学部門

- ① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う授業実施方針について
- ② 自動運転バスの活動報告について
- ③ 地域連携の活動報告について
- ④ 令和4年度 科学研究費補助金の申請拡大
- ⑤ 産業技術展示会への研究展示報告
- ⑥ 地域交流計画の実施状況
- ⑦ 高大連携計画
- ⑧ 国際交流計画
- ⑨ 若手研究者の育成
- ⑩ 主な施設設備計画の実施状況
- ⑪ 就職課・キャリア支援センター 事業状況

中長期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	14
-----------------------	----

高校部門	14
------	----

- 概況                    ■ 生徒募集
- 学校行事              ■ 進路結果

## 3. 財務の概要

(1) 決算の概要	20
① 貸借対照表関係    ② 資金収支計算関係    ③ 事業活動収支計算書関係	
(2) その他	23
① 有価証券の状況    ② 借入金の状況        ③ 学校債の状況        ④ 寄付金の状況	
⑤ 補助金の状況      ⑥ 収益事業の状況      ⑦ 関連当事者等との取引の状況	
⑧ 学校法人間財務取引	
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	23

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

- ① 科学の真理を窮め、それを世のために役立てるよう決意することによって、若き日に**使命感**を養え。
- ② 深く科学を学び、豊かな技術を身につけることによって、若き日に正しい**人生観**を養え。
- ③ 学生、教職員及び父兄が一体となり、学園の理想発展をめざすことによって、若き日に**連帯感**を養え。

学校法人智香寺学園埼玉工業大学は、仏教精神を基盤として、広く学術教育を行うことを建学の理念としています。単なる実学教育にとどまらず学生一人ひとりの「こころ」の涵養に力を注いでいます。

(2) 設置している学校・学部・学科等

(令和4年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	機械工学専攻	平成10年4月	6		12
	情報システム専攻	平成19年4月	7		14
	生命環境化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程)				
	機械工学専攻	平成12年4月	2		6
	情報システム専攻	平成22年4月	2		6
	生命環境化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	120		480
	生命環境化学科	平成19年4月	90		360
情報システム学科	平成19年4月	150		600	
工学部小計		360		1,440	
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	90		360	
心理学科	平成14年4月	50		200	
人間社会学部小計		140		560	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	昭和32年4月	400		1,200	
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(3) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(令和4年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	機械工学専攻	6	11		28
	情報システム専攻	7	4		19
	生命環境化学専攻	7	7		13
	(博士後期課程)				
	機械工学専攻	2	2		6
	情報システム専攻	2	3		10
	生命環境化学専攻	2	1		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	10	2		2
	心理学専攻	15	4		7
	大学院小計	51	34		91
	工学部				
	機械工学科	120	93	1	524
	生命環境化学科	90	46	2	310
情報システム学科	150	250	1	897	
工学部小計	360	389	4	1,731	
人間社会学部					
情報社会学科	90	107	1	434	
心理学科	50	57	1	227	
人間社会学部小計	140	164	2	661	
大学合計	551	587		2,483	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	400	386		1,194	
高校合計	400	386		1,194	
法人合計	951	973		3,677	

## (4) 役員・教職員概要

## ① 役員

(令和4年5月1日現在)

理事・監事の 区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)	ハラスメント等人権担当	浅野義光	平成27年12月
理事 (非常勤)	ハラスメント等人権担	宇都宮孝和	平成27年12月
理事 (常勤)	理事長	松川聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	加藤慎也	平成28年4月
理事 (非常勤)	教育研究担当	神居文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪行雄	平成19年4月
理事 (常勤)	教育・学生担当	小西克享	令和2年4月
理事 (非常勤)	コンプライアンス担当	緒方延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)	財務担当	宇高良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		今岡達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷仁海	平成19年7月
監事 (非常勤)		高丹秀篤	平成28年7月

## ② 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

本学は、役員及び評議員等を被保険者として、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第118条の3の規定による役員等賠償責任保険に加入しています。保険料は本学が全額負担し、役員等がその職務の執行に起因して保険期間中に損害賠償請求をされた場合の損害賠償金および争訟費用等は本保険により填補されます。

なお、本保険契約は役員等の職務執行の適正性確保のため、職務義務違反以外の要件に起因する損害等については、填補の対象外とされています。

## ③ 教員 ( )内は兼担を示す。

(令和4年5月1日現在)

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(57)	5	5(57)
先端科学研究所	2(18)	0	2(18)
工学部	47	106	153
人間社会学部	20	57	77
大学計	69	168	237
正智深谷高校	57	39	96

## ④ 職員

(令和4年5月1日現在)

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	5	0	5
大学部門	56	16	72
高校部門	9	1	10
合 計	70	17	87

## 2. 事業の概要

### (1) 令和4年度事業の概要・実施状況

#### 大学部門

#### ① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う授業実施方針について

令和4年度（2022年度）の授業実施方針は、「対面で実施することを基本とし、併せて、授業の内容等によりオンライン授業も実施する。」とした。

本学では2020年度以降、新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも学生の学びを止めず学修機会を確保するとともに、感染拡大防止に努めるため、実験、実習、演習、卒業研究については、対面授業を実施し、その他の科目については、対面授業とオンライン授業を同時に行うハイフレックス型（※）での授業を実施してまいりました。しかし、学生がキャンパスにおいて充実した学生生活を過ごすためには、多くの人との交流は不可欠なものと考え、キャンパスにおける学びや人との交流を深める機会を担保しながら、多様な教育・学修を可能とするための授業実施方針としました。

#### （※）ハイフレックス授業

対面授業とオンライン授業を同時に行う。教室で行われる対面授業の内容がリアルタイムにオンラインでも配信されます。学生は対面で受講するかオンラインで受講するかが選択できます。

#### ② 自動運転バスの活動報告について

令和4年度（2022年度）も新型コロナウイルス感染症の感染防止策を十分に講じた上で、自治体や企業との連携、共同研究などを行った。

#### ・私立大学初の大型自動運転バスをスクールバスに導入

#### キャンパスと最寄り駅間1.6kmの公道を自動運転で送迎

本学は深谷観光バス株式会社（本社：埼玉県深谷市）と連携し、大学と、大学の最寄り駅（JR 高崎線「岡部駅」）間のスクールバスとして、大型自動運転バスを一部の運行に導入しました。

学生が本学の先進的な研究・開発の成果である大型自動運転バスを通学時に乗車することにより、AI技術の応用を実際に体験できます。



・中部国際空港島での自動運転実証実験に参加

本学は、愛知県が実施した 2022 年度「自動運転社会実装モデル構築事業」に協力し、中部国際空港島および周辺地域で実施される自動運転の社会実装を見据えた実証実験に参加した。実証実験で使用された 3 台の車両のうち、市街地ルートを走行する大型バス車両として、本学が開発した自動運転バス車両が利用された。



・その他

千葉県幕張新都心地域において「2022 年度千葉市未来技術等社会実装促進事業」における自動運転実証実験の実施をはじめ、愛知県が実施する 2022 年度「自動運転社会実装モデル構築事業」に協力し、愛・地球博記念公園において開催された自動運転の社会実装を見据えた実証実験に、共同事業体のメンバーとして本学も参加し、渡部教授が大村知事の囲み取材に同席するなど、本学の取り組みが紹介される機会が増えた。



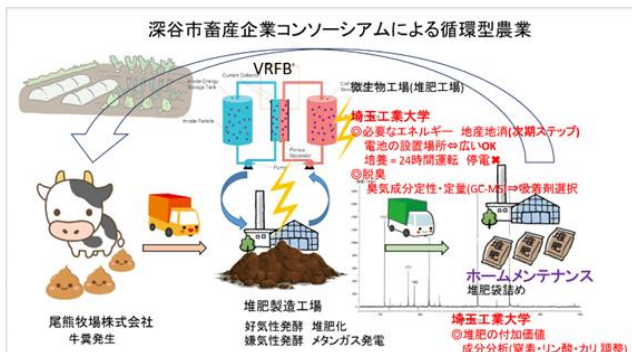
③ 地域連携の活動報告について

令和 4 年度（2022 年度）は自治体や企業との連携、共同研究が活発に行われた。

・循環型農業を深谷の企業と共同研究

牧畜の地産地消を目指す深谷市畜産企業コンソーシアムを科学的に支援

2022 年 6 月 1 日に尾熊牧場グループ有限会社ホームメンテナンス（深谷市）と、循環型農業（SDGs）に関する共同研究契約を埼玉縣信用金庫（熊谷市）と一般社団法人さいしんコラボ産学官の仲介により締結した。



この共同研究は、本学工学部生命環境化学科（環境物質化学研究室）本郷照久教授の研究チームが、深谷地域の地産地消による牧畜活動の循環型農業を推進する深谷市畜産企業コンソーシアムの活動を科学的に支援する。

・美里町との連携協力に関する包括連携協定調印式を実施

2022年8月25日（木）に美里町（埼玉県児玉郡美里町）との連携協力に関する包括連携協定調印式を実施した。本協定は、本学の地元地域への社会連携として、大学の専門家による学術的な知見や、学生の参画を通じて、産業の振興、人材育成、地域づくりなどの諸分野において協力関係を深め、地域活性化の一助になることを目的としています。なお、本学が自治体と連携協定を締結するのは、本学の位置する埼玉県深谷市に続き2例目となる。



④ 令和4年度 科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※令和4年度 科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	令和4年度 直接経費	令和4年度 間接経費
基盤研究（C）	新規	機械工学科	長井 力	1,400,000	420,000
挑戦的研究(萌芽)	継続	先端科学研究所	丹羽 修	1,700,000	510,000
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	本郷 照久	700,000	210,000
基盤研究（C）	継続	機械工学科	趙 希祿	1,100,000	330,000
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	木下 基	1,600,000	480,000
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	山崎 隆治	1,100,000	330,000
基盤研究（C）	移管	機械工学科	政木 清孝	1,084,464	0
計			7件	8,684,464円	2,280,000円

⑤ 産業技術展示会への研究展示報告（令和4年度実績）

展示会名	実施月
・そごう大宮店 サステナブルな生活フェア	6月
・埼玉県産業振興公社 第2回産学連携技術シーズ発表会	8月
・SIP-adus 第3回合同試乗会(内閣府戦略的イノベーション創造プログラム)	9月
・産業交流展 2022	10月
・第2回坂城経営フォーラム 産学官連携 先端研究シーズ講演会	10月
・諏訪圏工業メッセ 2022	10月
・いたばし産業見本市	11月
・埼玉縣信用金庫 若手行員研究シーズ視察	11月
・新潟県三条市議会 自動運転技術の視察	11月
・彩の国ビジネスアリーナ 2023	2月

⑥ 地域交流計画の実施状況

大学の教育研究の成果を地元や社会へ還元することを目的とし実施。

・市民のための公開講座（対面・オンライン開催）

令和4年度（実績） 受講者：計 226名

6月4日	名経営者の名言講座（林教授）	受講者：対面 17名, オンライン 29名
6月11日	地球温暖化入門講座（本郷教授）	受講者：対面 27名, オンライン 17名
6月12日	機能性流体講座（岡田助教）	受講者：対面 15名, オンライン 13名
6月18日	ロボット学講座（橋本教授）	受講者：対面 23名, オンライン 31名
6月26日	お天気と気象講座（高橋俊講師）	受講者：対面 31名, オンライン 23名

・心理学セミナー（対面・オンライン開催）

令和4年度（実績） 受講者：計 100名

7月2日	コラージュ療法の世界（三浦教授）	受講者数：21名
9月3日	感覚の個人差（大塚教授）	受講者数：26名
10月1日	「臨床の知」について考える（藤巻准教授）	受講者数：20名
11月5日	こころの調整法（村中講師）	受講者数：33名

・先端科学研究所協力会講演会（対面・オンライン開催）

令和4年度（実績） 受講者：計 133名

6月3日 第1回協力会講演会（対面・オンライン開催）

テーマ：「企業におけるメンタル・ヘルス対策の基礎-心の健康とストレスの理解-」

講師：村中講師（心理学科）

受講者数：対面 9名、オンライン 16名



11月1日 第2回協力会講演会（対面・オンライン開催）

テーマ：「過去の地震から学ぶ ～機械に見る被害例と効果的な対策～」

講師：皆川准教授（機械工学科）

受講者数：対面9名、オンライン23名

2月14日 第3回協力会講演会（対面・オンライン開催）

テーマ：「ヒューマンエラーと注意」

講師：大塚教授（心理学科）

受講者数：対面20名、オンライン56名

・**企業見学会**

コロナの影響により開催を見送り

・**「科学と仏教思想」研究センター研究会（オンライン開催）**

令和4年度（実績）

5月27日 第1回研究会「浄土の哲学：念仏・衆生・大慈悲心」

7月29日 第2回研究会「真言宗における浄土観・阿弥陀信仰について一覚鑠を中心に」

9月30日 第3回研究会

※題目をおかず、仏教や宗教（と科学）に関して自由に議論を行った

11月25日 第4回研究会「一遍仏教とその背景」

2月24日 第5回研究会「證空思想とその評価の問題」

・**「科学と仏教思想」研究センター公開セミナー**

令和4年度（実績）

コロナの影響により開催中止

・**AI研究センター講演会（ハイフレックス開催）**

令和4年度（実績）受講者：計215名

5月27日 第1回講演会（対面・オンライン開催）

テーマ：「ディープラーニングによる画像処理と医用画像診断支援システムの展望」

講師：山口大学医学部附属病院医療情報部 准教授 平野 靖 博士

受講者数：125名

2月14日 第2回講演会（対面・オンライン開催）

テーマ：「富岳スーパーコンピュータに基づく脳シミュレーション」

講師：理化学研究所脳科学総合研究センター脳信号処理チーム研究員 孫哲

受講者数：90名

・第19回 SAIKO フェア（対面開催）

令和4年度（実績） 来場者：計 895 名

- ・機械工学研究室「色々なものを揺らしてみよう」皆川准助教
- ・機能性流体力学研究室「磁石の不思議を探ってみよう」岡田助教
- ・植物ゲノム工学研究室「花の変化を見てみよう」
- ・認知ロボティクス研究室「AI・ロボットとおしゃべりしよう」橋本教授
- ・教育心理学研究室「エイムズの部屋を作ってみよう」高橋教授
- ・経営情報研究室「AIで情報を取り出す」村山教授
- ・臨床心理学研究室「箱庭療法ってなんだろう」伊藤准教授

・子ども大学ふかやの開催（深谷市教育委員会等との協働事業）

（子ども大学ふかや学長：内山俊一 学長／実行委員長：教育研究支援課 笠原貴弘）

令和4年度（実績）：深谷市内の小学校4年生～6年生、参加者：30名

：本学会場他4日間（8/6、8/19、8/27、9/24）対面開催

・子ども大学よりい（寄居町教員委員会との共催事業）

寄居町の小学校4年生～6年生を対象（定員30名）とし、対面形式での開催計画であったが、コロナにより開催中止。

・こころざし深谷科学塾（深谷市教育委員会からの新規依頼事業）

普段味わえないような科学の世界を体験させることにより、子供たちの科学への探究心と未来への夢を育み、伸びようとする子をさらに伸ばすことを目的とした事業。

令和4年度（実績）：深谷市内の小学校4年生～6年生及び中学生、参加者：12名

：本学会場 8/27 対面開催

・深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。

- \*ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣
- \*深谷市教育委員会へ委員の派遣
- \*メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続
- \*市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
- \*日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催
- \*深谷商店街連合会との連携協力
- \*深谷市七夕まつりへの出展（7月）
- \*深谷市産業祭への出展（11月）
- \*ふるさとふかや 渋沢学 専門員会へ委員の派遣
- \*DEEP VALLEY Agritech Award2022 審査員の派遣

・長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携を推進する。

- \* 埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ理科実験」
- \* 「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
- \* 「さかきふれあい大学」埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」
- \* 坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
- \* 坂城高校大学見学会
- \* 坂城町との連携協定に基づく連携会議
- \* 坂城高校を発展させる会

#### ⑦ 高大連携計画

##### 高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

- ・正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。

協定校：令和4年4月現在 合計 38校

[内訳] 高校 36校・専門学校 1校・日本語学校 1校

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1. 智香寺学園正智深谷高等学校    | 20. 群馬県立太田工業高等学校   |
| 2. 埼玉県立久喜工業高等学校     | 21. 埼玉県立皆野高等学校     |
| 3. 埼玉県立深谷商業高等学校     | 22. 群馬県立吉井高等学校     |
| 4. 埼玉県立熊谷工業高等学校     | 23. 埼玉県立川越工業高等学校   |
| 5. 埼玉県立児玉白楊高等学校     | 24. 埼玉県立大宮工業高等学校   |
| 6. 埼玉県立寄居城北高等学校     | 25. 平方学園明和県央高等学校   |
| 7. 埼玉県立深谷高等学校       | 26. 埼玉県立川口工業高等学校   |
| 8. 埼玉県立深谷第一高等学校     | 27. 埼玉県立浦和工業高等学校   |
| 9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校    | 28. 埼玉国際学園（日本語学校）  |
| 10. 群馬県立前橋工業高等学校    | 29. 埼玉県立羽生第一高等学校   |
| 11. 長野県坂城高等学校       | 30. 大妻学園大妻嵐山高等学校   |
| 12. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校 | 31. 埼玉県立滑川総合高等学校   |
| 13. 埼玉県立秩父農工科学高等学校  | 32. 埼玉県立狭山工業高等学校   |
| 14. 埼玉県立妻沼高等学校      | 33. 栃木県立宇都宮工業高等学校  |
| 15. 群馬県立高崎工業高等学校    | 34. 埼玉県立新座総合技術高等学校 |
| 16. 群馬県立藤岡工業高等学校    | 35. 桐生市立商業高等学校     |
| 17. 群馬県立藤岡中央高等学校    | 36. 埼玉県立熊谷西高等学校    |
| 18. 日々輝学園高等学校       | 37. クラーク記念国際高等学校   |
| 19. 埼玉県立進修館高等学校     | 38. 長野県上田東高等学校     |

令和4年度（実績）

【高大連携事業】

- ・協定校大学見学会（体験授業等）実施（19校） 来校者数（高校生）：計644名
- ・工業高校学習成果研究発表会指導講評依頼（1校）
- ・インターンシップ事業（協定校からの生徒受入れ）（2校）

※その他、協定校から文化祭オブジェ制作・3Dプリンタ講習会の依頼があったがコロナにより中止。

⑧ 国際交流計画

- ・日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」 主催：JST  
コロナにより申請を見送り

- ・第2回ダナン大学・埼玉工業大学国際シンポジウム 主催：先端研国際交流研究センター  
昨年に引き続きコロナ禍における国際交流研究活動を推進すべく、海外協定校であるベトナムダナン大学と環境分野をテーマとしたオンラインシンポジウムを開催。

参加者数：ダナン大学および埼玉工業大学の学生，教職員

(Zoom アクセス延べ57アカウント)

開催日時：2023年3月24日

(日本時間11:00~13:00, ベトナム時間9:00~11:00)

シンポジウム タイムテーブル（実施内容）

ベトナム	日本	Contents
9:00	11:00	開会，挨拶（丹羽先端研所長（経緯等の説明））
9:05	11:05	研究紹介1（埼玉工業大学，機械工学科，高坂祐顕） 「Energy For Next Generation」
9:25	11:25	研究紹介2（ダナン大学，Dr. Duy P.Q. Nguyen） 「Encouraging a Shift to More Environmentally-Sustainable Transport Modes in Vietnam: A Focus on Human Behaviour」
9:45	11:45	研究紹介3（埼玉工業大学，情報システム学科，藤田和広） 「Recent Topics in Computational Electromagnetics Laboratory」
10:05	12:05	休憩
10:15	12:15	研究紹介4（ダナン大学，Dr. Anh Q. Nguyen） 「Full-Heusler compound for Promising Spintronic Application: A DFT-based Computations」
10:35	12:35	交流活動活性化に向けたフリーディスカッション ・これまでの事例紹介と今後の計画（埼玉工業大学） ・The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development の案内（ダナン大学）
10:55	12:55	挨拶（Dr. Hoang Hai ダナン大学日本センター長（総括））
11:00	13:00	閉会

⑨ 若手研究者の育成

・第20回若手研究フォーラム（主催：先端科学研究所 共催：埼玉工業大学大学院）

開催日：令和4年8月9日

開催形式：対面（聴講のみオンライン可）

基調講演：2件

佐藤 嘉伸（奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授）

「医用画像を中心とした医療 AI の展開—筋骨格解析への応用—」

八木 俊介（東京大学生産技術研究所 准教授）

「無限の可能性を秘めた蓄電池の研究とその未来」

特別講演：5件

岡田 和也（埼玉工業大学 工学部 機械工学科）

「非球状磁性粒子分散系を対象としたシミュレーション的研究」

村田 仁樹（埼玉工業大学 工学部 情報システム学科）

「ディープラーニングの応用に関する研究」

古川 靖（埼玉工業大学 工学部 情報システム学科）

「光ファイバ内部に生じる散乱光を用いた分布型センシングとその応用」

伊藤 淳子（埼玉工業大学 人間社会学部 心理学科）

「蕎麦と日本人のこころ」

本郷 照久（埼玉工業大学 工学部 生命環境化学科）

「バイオマス資源としての米のもみ殻とその有効活用について」

一般講演：口頭発表 45 件，ポスター発表 28 件 合計 73 件

参加者数：来場者 130 名（発表者・座長含む）

オンライン参加者（来場者と重複あり 108 名、オンライン聴講登録者 49 名）

⑩ 主な施設設備計画の実施状況

学生駐車場新築工事	162,866 千円
34 号館ネットワーク・内線工事	21,054 千円
1 号館 114、143、147 教室改修工事	25,093 千円
29 号館 1、2 階空調工事	12,870 千円
26 号館屋根修繕工事	30,017 千円
27 号館屋根修繕工事	15,333 千円
30 号館空調工事（3 年計画／2 年目）	33,605 千円

合計 7 件

◆機械工学科総合実験実習棟

5、7、8 号館から新棟へ移設作業 38,170 千円

34 階学習室の講義机・椅子の購入 7,309 千円

◆建物取り壊しに係わる調査

10、12号館アスベスト含有の有無

1,732千円

⑪ 就職課・キャリア支援センター 事業状況

**【就職課】**

**学生就職支援講座・ガイダンス**

- (1) 公務員対策講座は、8月～3月（夏期休暇・冬期休暇）に「公務員・就職筆記試験対策講座」を対面とWebのハイブリット講義にて開講した。3月には、受講者を対象に全国公開模擬試験（地方上級・大卒公安型）を実施した。
- (2) 1年生は、3年後の就職活動を見据え、進路希望登録（SAIKOナビ）の登録を実施した。2年生は、就職ガイダンス、インターンシップガイダンス、Uターンを考える講座等を実施した。3年生は、4月よりオンライン配信で就職ガイダンスのほか、様々な就職活動準備講座を実施した。（(3)以下参照）
- (3) 具体的には、自己分析講座、エントリーシート作成講座、業界研究講座、ビジネスマナー&面接基礎講座、合同企業説明会の参加の仕方講座など、多岐に渡る講座を実施した。さらに少人数制講座として、「1day 対面集団面接対策研修」、「Web 集団面接講座」をそれぞれ複数回実施。また、履歴書用写真撮影を11・12月（年内）に実施し、早期化している就職活動に備えた。
- (4) 筆記試験対策としては、e-ラーニング（SAIKOドリル）形式、講師から解説を受ける講座（「SPI集中講座（基礎編）（応用編）」）の2つを準備し、学生が好きな方を選択して学習できる環境を準備した。
- (5) 6月に企業5社を集め「業界研究講座」を実施した。
- (6) 9月に留学生ガイダンスを実施した。日本での就職活動や就労ビザについて、説明した。

**合同就職説明会及び個別就職説明会**

- (1) 2023年3月卒の未内定者を対象に、前年度3月～11月まで、学内個別説明会を実施し、延べ191社実施、延べ606人の学生が参加した。
- (2) 2024年3月卒の未内定者を対象に、2023年2月・3月で、学内合同企業研究WEBセミナーを実施した。参加企業数は279社、参加学生は延べ3264名。

**保護者向け就職ガイダンス**

- (1) 2023年3月卒のうち、5月27日時点で未内定の学生（45名）の保護者を対象に、7月2日（土）に個別面談を実施。保護者の希望を伺い、WEB面談、対面面談の両方で対応。

**個別面談**

- (1) 2021年度に引き続き、2022年度も週5日キャリアカウンセラーによる個別面談が受けられる体制を整えた。（カウンセラー3人で週5日を担当）学生の利便性を考え、WEBか対面かの選択が可能となっている。

- (2) 3年生の個別面談を2022年6月から開始し、インターンシップ参加希望や早い時期から就職活動準備の希望している学生へ相談に対応。

#### 情報交換会及び加盟団体

- (1) 例年秋以降、各自治体や団体（例：群馬県や栃木県、長野県、富山県、石川県など）が主催する情報交換会に参加し、大学紹介及び求人獲得などを行ってきたが、22年度は課内の人員不足により、ほぼ全ての情報交換会で参加を見送った。その中でも、埼玉県と埼玉労働局主催の情報交換会には参加し、発達障害の学生に対する県の施策などの情報を仕入れ、学生支援に活かすことができた。
- (2) 関東地区大学理工系就職研究会（加盟団体）では、年間5回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。2022年7月27日に工場見学会を実施したが、本学は課内人員不足により参加を見送った。2023年1月20日の研究会では、目白大学による発達障害学生に対する就職支援に関する全学的な取組についてご講演いただき、本学の課題解決の参考になった。
- (3) 埼玉県大学就職問題協議会（加盟団体）で2022年8月2日に16大学合同主催のオンライン合同企業説明会も実施した。

#### 【キャリア支援センター】

##### 地域交流

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、2～3月にかけて就職課主体で実施したオンライン合同企業説明会に、坂城町企業を誘致。坂城町の企業4社が参加。

##### 講義

- (1) キャリア支援科目の講義を前期に8コマ、後期に1コマ実施。基本的には対面形式で実施し、配慮が必要な学生のみオンラインで受講。3年生向け科目をのべ479名、2年生向け科目を54名、1年生向け科目を352名が履修。グループディスカッションの実践、履歴書・エントリーシートの書き方修得、短時間での文章執筆、論理的思考の基礎修得等、就職支援を目的とする講義を実施。

##### 海外研修引率

- (1) ベトナム（ダナン）での海外研修を再開。夏休みと春休みを活用し、2度実施した。本学の学生を合計36名指導。
- ・事前研修7月24日、海外研修8月11日～21日、事後研修9月18日
  - ・事前研修2月12日、海外研修3月01日～10日、事後研修3月26日

##### 交換留学協定

- (1) 新型コロナウイルスの影響で交換留学は断念。

## 中長期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

埼玉工業大学は、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、新たに将来計画に関わる中長期ビジョンを掲げ、来る令和9（2027）年を見据えたビジョンを策定し、2021年度に「将来計画 SAIKO中長期ビジョン2021-2027」の冊子が完成した。（ホームページでも公開中）中長期ビジョン実現のため、目標の一つとしている入学定員の確保では、令和5年度入試は定員を確保することができなかった。少子化の影響を受け、定員割れの大学が続出している中、本学もその一校となった。この結果を真摯に受け止め、入学戦略の見直しを始め、長期ビジョン達成の戦略として掲げた7項目（入学戦略、教育改革戦略、学生支援戦略、キャリア・就職支援戦略、地域連携戦略、研究活動活性化戦略、管理運営体制強化戦略）について、戦略方法を再検討し、その具体的な取組みの実現を目指したいとした。

- ・ 入学定員の確保100%+α
- ・ 離籍率（1年間）3%以下
- ・ 就職率95%以上
- ・ 大学院進学率10%以上
- ・ 健全な財務の実現
- ・ 新時代を担う技術の開発と社会への還元

## 高校部門

### ■概況

令和元年末から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、今年度も一進一退を繰り返す状況となりました。複数回のワクチン接種を済ませた生徒が増えていくにしたがって、感染者数の減少傾向が続きました。とはいえ、ひとたびクラス内に感染者が出ると、感染が複数名に広がるケースもあり、年間を通じて予断を許さない状況が続きました。特にクラブ内での感染拡大については散発的に報告され、その都度、一時的に活動を停止する流れが定着していきました。出席停止となっている生徒に対する授業のライブ配信も継続しながら、学習の継続を最優先にした学校としての対応が定着してきました。感染者の増減によって、登校する／止めるといった対応を臨機応変に行い、各クラスともおおむね問題なく対応ができていました。

その反面、出席停止について感染者・濃厚接触者は当然としながら、感染不安や少しの体調不良といった理由であっても出席停止を認めざるを得なかったために、安易に登校を控える流れができてしまったことは否めません。今後、国の方針転換に合わせて柔軟に対応していくことが必要だと思います。

授業以外の学校行事については、一部制限された状況だったとはいえ、おおむね通常通りに実施することができました。入学式や卒業式といった式典はもちろん、文化祭や体育祭などのイベントも人数を制限しながらも、来校者を迎えた上で実施できたことは生徒たちの思い出に残るものとなったことでしょう。また、高校時代最大の思い出である修学旅行（GCAT 研修旅行）については、方面を国内コースに制限しながらも実施できたことは記憶に残る最高の思い出になったことと思います。修学旅行中、現地で3名



ほど新型コロナウイルスの感染報告がありました。また、季節性インフルエンザの感染者も出たことから、修学旅行の実施時期について早々に見直す必要があると感じています。現在、政府の方針では新型コロナウイルスの5類への引き下げが、確実視されています。引き下げによって感染対策が大きく変わることが予想されています。そのことは学校現場においても無関係ではありません。今後、感染対策が緩和されていくことと思いますが、各自が意識を高く持ちながら、十分に気をつけながら学校生活を送っていくことが不可欠だと考えています。

### ■生徒募集

令和6年度からの実施を目指している教育改革に向けて、方向性を検討する時期が長引いたために、例年よりも情報提供の動き出しが遅くなってしまいました。また、紙からウェブへと広報戦略を転換していくことで他校との差別化を図っていく戦略を続けてきましたが、今年度についてはその効果を具体的にみることはできませんでした。イベントへの申し込みが低調だったこともあり、途中で戦略を切り替えて生徒募集活動に当たった結果、後半からの巻き返しを図ることができました。結果的に新入学生が352名と徐々に募集定員を割り込む結果となってしまいました。この結果を真摯に受け止め、次年度に向けて巻き返しを図っていきたいと思います。

### ○令和5年度入学者数

系統	コース	男子	女子	入学者数	募集定員
特別進学系	S	7	8	15	30
	H	20	25	45	90
総合進学系	I	63	77	140	120
	P	104	48	152	120
合計		194	158	352	360

### ○令和5年度入学試験結果

受験形態	受験者数			合格者数			手続者数		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
単願	166	121	287	165	121	286	164	121	285
併願	465	505	970	457	503	960	30	37	67
合計	631	626	1,257	622	624	1,246	194	158	352

## ■学校行事

### ○キックオフセミナー

これまでの内容を踏襲しつつ、例年とは一部内容を変更したスケジュールで実施しました。高校生活のスタートにあたり、各クラスの親睦を深めると同時に、本校での学びのベースとなる内容を盛り込み、感染対策を徹底した中で、有意義な時間を過ごすことができました。

### ○増上寺研修（3年）

新型コロナウイルス感染拡大により、今年度も実施を見送りました。

### ○公開授業・クラス懇談会

4月中旬の午前中2時間の授業を公開授業とし、終了後にクラス懇談会が行いました。当日は500名を超える多くの保護者の方にご来校いただきました。年度初めの公開授業ということもあり、1年生の保護者の方が多い印象でした。2年生は修学旅行や学校生活、3年生は進路選択と大学受験など、学年によって心配な点は異なりますが、担任と保護者との信頼関係構築の一助となったことと思います。3年生の保護者向けには、進路ガイダンスも行われ、学校の様子を知るよい機会になったことと思います。

### ○松川杯スポーツ大会

クラスの親睦を深めることを目的として、バスケットボールとドッジボールの2種目で行われました。この日に合わせて作ったクラスTシャツを身にまとい、各クラスのリーダーが中心となってチームをまとめました。新型コロナウイルス感染対策として、時間と会場を分散しての実施となりましたが大いに盛り上がった行事となりました。

### ○歌舞伎鑑賞教室（3年）・芸術鑑賞会（1・2年）

新型コロナウイルス感染拡大が小康状態に入った7月半ば、2年ぶりに歌舞伎教室と芸術鑑賞会を実施しました。3年生にとっては、日本の伝統文化に触れるとても貴重な機会となりました。また、1・2年生の芸術鑑賞会は「学校寄席」でした。日本の伝統芸能である落語、講談に触れ、その奥深さと面白さを味わうことができました。噺家さんの話術に会場は大いに盛り上がりました。

### ○文化祭（葵祭）

新型コロナウイルス感染が小康状態となった9月、2年ぶりに対面での文化祭を行いました。今年のテーマは「正智改革～全力葵祭～」。1、2年生にとっては初めての文化祭ということもあり、慣れない部分も多々ありながら、各クラス共に大いに盛り上がっていました。一般公開は見送られましたが、一部の保護者の方には活動の様子を見ていただくことができました。3年生にとっては最後の文化祭となりましたが、高校時代の思い出の1ページとなりました。

### ○体育祭

仙元山グラウンドに全校生徒が集まったの体育祭は3年ぶりの開催となりました。コロナ禍により開催を見送り続けてきたため、実際の体育祭を一人の生徒も体験したことがない中での体育祭の開催は、準備の段階から不慣れな状況で、教員も手探りの中で本番の日を迎えました。見事に晴れ上がった快晴の空の下で体育祭は始まりました。学年・クラスの枠を飛び越え、赤・白・緑の三色に分かれての勝負が行われました。徒競走や障害物競走などの個人種目から各種リレーや綱引き・大玉転がしなどチーム競技まで、大いに盛り上がりました。

### ○土曜講座

これまでの内容を見直し、英語・国語・数学の基礎的な講習をベースに、探求型科目やオンライン英会話などを並行して開講しました。講座の出席については、希望者に限定して実施した結果、高い出席率を維持することができたようです。今後、土曜講座の在り方については議論を重ね、より多くの生徒が興味を持つような内容の検討が必要だと感じています。

### ○令和4年度全国高等学校総合体育大会 (四国インターハイ)

四国を中心とした複数会場で実施された今年度のインターハイには、男子バスケットボール部、男子バレーボール部、女子卓球部、山岳部の4クラブが出場しました。新型コロナウイルス感染者数の増減が続く中でしたが、各クラブともに万全の準備を整え、大会に備えていました。しかしながら、男子バスケットボール部では試合当日の朝に発熱者が確認され、泣く泣く出場を辞退することとなってしまいました。また、男子バレーボール部においては、大会出場に向けて深谷を出発する前日に、発熱者が確認され、こちらも無念の出場辞退を余儀なくされてしまいました。努力を続けてきた選手たちの気持ちを思うとやりきれない思いになりますが、この経験を来年に生かしてくれることを期待しています。

### ○宗教行事（精霊会・法然忌・成道会）

新型コロナウイルス感染対策のために、全校生徒が体育館に一同に会することを避け、全校放送により各教室で写経を行いました。儀式としては実施できなかったため短い時間となりましたが、日常生活を離れて心を落ち着ける貴重な時間となりました。

### ○企業訪問プログラム（2年生）

昨年、新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかったために、今年は2年生がプログラムに参加しました。コロナ禍の中でしたが、多くの企業の賛同により、実際に企業を訪問して担当者の方から話を聞くことができました。実際に職場を見学したり、働く上での苦労話などを聞くことで、自分自身の職業選択について考えるとてもよい機会となりました。

#### ○修学旅行【GCAT 研修旅行】（2年生）

学年・クラスを取り払い、海外・国内コースからの選択制として始まった GCAT 研修旅行。ここ 2 年はコロナ禍により、全てのコースを中止としてきましたが、今年は 3 年ぶりの開催となりました。残念ながら海外コースの実施は見送りとなりましたが、①北海道、②東北、③四国／関西、④山陰／北九州、⑤屋久島／種子島、⑥石垣島の国内 6 コースからの選択制で実施しました。各コース「SDGs」と「ふれあい」を研修内容に盛り込み、5泊6日の行程での修学旅行となりました。個人旅行では決して体験できない内容ばかりで、参加した生徒たちからは自分のコースを自慢する声がたくさん聞かれました。感染不安による不参加者もほとんどなく、ほぼ全員の生徒が旅行に参加しました。旅行中 3 名がコロナ感染により途中離団しましたが、その影響が最小限にとどまったことは幸いでした。

#### ○深谷アンバサダープロジェクト（1年生）

深谷アンバサダープロジェクトでは深谷の魅力を伝える CM 動画(30 秒～1 分)の制作を行いました。各クラスの代表 12 班と教員により推薦された 3 班の計 15 班が体育館で発表を行いました。どの作品も生徒たちが構成を考え、取材撮影を行い、ナレーションや文字を加えるといった工夫が見られました。外部よりお招きした審査員からも高い評価を得ることができ、この活動を通して生徒の成長を感じることができました。

#### ○実用英語技能検定

今年度の英語検定の合格実績は以下のとおりとなりました。準会場受験も定着し、英語科の先生方の協力により年々合格者数の増加が続いています。英語科の多くの先生方の協力により、放課後の対策講習や二次試験面接対策などにより、上位級の合格者も増える傾向が続いています。今後もさらに取り組みを強化し、合格者数の増加に取り組んでいきたいと思えます。

英語検定合格者数： 準 1 級 2 名 / 2 級 58 名 / 準 2 級 143 名

#### ■進路結果

令和 4 年度卒業生の進路結果は以下の通りとなりました。

各大学においては志願者数の二極化傾向が続き、都内人気大学の倍率は例年以上に上がる結果になりました。共通テストで求められる読解力は英語の語数増加だけに留まらず、他教科においてもかなりの文章量となり、圧倒的な読解力が求められる出題傾向がより鮮明になりました。その結果、共通テスト型入試で GMARCH レベルに合格することがさらに厳しくなりました。また、本校から国公立大学を志望する生徒数は、科目数の負担や受験期間の長さから躊躇する傾向が強くなり、結果として近年では最小の国公立大学合格者数となりました。今後、本校独自の進路路線をどのように打ち出していくのか、今後の方向性をどのように示していくかが大きな課題となってくるはずです。また、大学進学者数に対して、専門学校進学者数はここ数年で最多となりました。看護

医療系を中心に、資格取得が安定的な就職につながることから、今後も同様の傾向が続くことが予想されます。この点においても他校との差別化を図る上では強化できるポイントだと認識しています。今後、さらに系統立てた指導体制の構築を目指していきます。

○卒業生進路状況

	H30	R1	R2	R3	R4
卒業生数	446	456	422	316	387
四年制大学	71.5%	74.6%	78.4%	81.6%	78.3%
短期大学	1.8%	3.5%	1.4%	0.9%	1.0%
専門学校	13.2%	15.4%	13.3%	13.3%	16.8%
就職	6.7%	3.3%	2.4%	2.5%	2.1%
進学準備	6.7%	3.3%	4.5%	1.6%	1.8%

○4年制大学

	H30	R1	R2	R3	R4
国公立大学	20	26	26	17	15
私立大学	433	514	515	328	436
合計	453	540	541	345	451

○国公立大学合格者 15名 ※（ ）内は既卒生

横浜国立	1	埼玉	2	群馬	3	新潟	1
信州	1(1)	埼玉県立	2	群馬県立	2	前橋工科	1
防衛大学校	1	その他	1				

○私立大学合格者 436 (16)名 ※（ ）内は既卒生

埼玉工業	21	慶応	1(1)	明治	1	青山学院	5(2)
立教	2	中央	1	法政	6	立命館	1(1)
学習院	3(1)	成蹊	6	成城	1	明治学院	4
芝浦工業	2	武蔵	5	獨協	13	國學院	4
東京農業	3	日本	8(3)	東洋	32(3)	駒澤	9
専修	2	文教	14(3)	東京電機	9(2)	工学院	3
その他私大	280(3)						

### 3. 財務の概要

#### (1) 決算の概要

2022（令和4）年度の資金収支の規模は8,108百万円となりました。収入面では深谷校舎（旧専門学校）土地の売却、受託研究収入や教職員の退職に伴う退職金財団からの交付金の増加があったが、2021（令和3）年度には機械実習工場の新築工事に伴い国の補助金を得たことと、金融機関より借入を実施したためこともあり、補助金収入、借入金等収入が減少した。

支出面では、機械実習工場の新設工事に伴う旧校舎の取壊し費用や、研究室の移設費用等の教育研究経費、退職金を中心とした人件費支出が前年との比較で増加したが、施設関係支出は大きく減少した。

以上の収支の結果、翌年度繰越支払資金については、収入の増加と支出の減少により、対前年比で289百万円の増加となり、将来に向けた一定の備えを確保することができました。

#### ①貸借対照表関係

今年度の資産負債の状況は、総資産で351百万円の減少、総負債は230百万円の減少となり、純資産で121百万円の減少となった。

固定資産は、有形固定資産で投資額433百万円（現物寄付を含む）に対し、減価償却・除却等で831百万円の実績で398百万円の減少となり特定資産、その他の固定資産の増減と併せて、固定資産合計では15,563百万円の残高となる。流動資産は3,117百万円から3,167百万円に増加、現金預金が増加したことが要因となっている。

負債勘定は、固定負債では長期借入金が133百万円減少し、また、退職給与引当金も26百万円減少したことにより全体として166百万円減少した。流動負債も合計で64百万円減少し1,267百万円となり、負債合計は前年度より230百万円減少の2,640百万円となった。

基本金の第1号基本金は、学園全体で対前年度比108百万円減少し、繰越収支差額は13百万円支出超過が増加し、10,131百万円となり翌年度へ繰り越すこととなった。

#### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

科 目	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
固 定 資 産	16,381,364,535	16,024,425,609	15,687,048,856	15,963,298,659	15,562,623,357
流 動 資 産	2,322,788,030	2,509,014,700	2,842,204,373	3,117,484,274	3,167,563,290
資 産 の 部 合 計	18,704,152,565	18,533,440,309	18,529,253,229	19,080,782,933	18,730,186,647
固 定 負 債	1,353,479,657	1,194,409,116	1,142,246,551	1,538,989,207	1,373,433,522
流 動 負 債	1,296,772,127	1,284,492,015	1,205,928,334	1,331,326,431	1,266,882,325
負 債 の 部 合 計	2,650,251,784	2,478,901,131	2,348,174,885	2,870,315,638	2,640,315,847
基 本 金	25,906,152,732	25,942,732,462	25,859,207,686	26,328,522,715	26,220,929,082
繰 越 収 支 差 額	-9,852,251,951	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420	-10,131,058,282
純 資 産 の 部 合 計	16,053,900,781	16,054,539,178	16,181,078,344	16,210,467,295	16,089,870,800
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	18,704,152,565	18,533,440,309	18,529,253,229	19,080,782,933	18,730,186,647

#### イ) 財務比率の経年比較

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	
固定資産構成比率	固定資産/総資産	87.6%	86.5%	84.7%	83.7%	83.1%
流動資産構成比率	流動資産/総資産	12.4%	13.5%	15.3%	16.3%	16.9%
総負債比率	総負債/総資産	14.2%	13.4%	12.7%	15.0%	14.1%
前受金保有率	現金預金/前受金	265.9%	294.0%	359.7%	366.7%	459.3%
基本金比率	基本金/基本金要組入額	97.5%	98.2%	98.7%	98.8%	99.1%
減価償却比率	減価償却累計額（図書を除く） /減価償却資産取得価額（図書を除く）	51.0%	52.0%	53.2%	52.7%	53.8%

②資金収支計算関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
学生生徒納付金	3,427,286,880	3,551,969,820	3,635,715,280	3,638,694,620	3,664,094,460
手数料収入	84,964,480	104,958,131	86,888,423	81,208,219	73,848,165
寄付金収入	44,122,861	32,834,000	72,938,354	19,983,000	49,364,929
補助金収入	776,474,680	664,755,300	790,632,020	1,083,291,426	849,304,508
資産売却収入	10,000	0	4,748,550	780	68,220,000
付随事業・収益事業収入	48,619,868	29,815,158	38,983,985	30,160,893	66,547,193
受取利息・配当金収入	1,343,445	1,351,663	1,255,682	1,151,374	1,041,046
雑収入	81,648,700	173,174,185	79,463,452	98,223,729	198,034,345
借入金収入	0	0	0	600,000,000	0
前受金収入	831,754,250	772,932,500	743,685,000	714,185,000	633,085,000
その他の収入	100,581,302	162,089,291	194,889,259	324,184,343	783,402,515
資金収入調整勘定	-799,144,291	-1,026,643,509	-871,689,713	-1,117,322,035	-898,092,111
前年度繰越支払資金	1,939,612,755	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514
収入の部合計	6,537,274,930	6,679,229,351	7,050,102,705	8,148,629,188	8,107,859,564

支出の部	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
人件費支出	2,461,954,930	2,522,597,445	2,373,460,417	2,449,094,772	2,546,376,206
教育研究経費支出	1,044,245,306	1,081,405,395	1,257,884,513	1,163,431,636	1,403,305,875
管理経費支出	375,256,054	398,978,896	347,825,351	424,905,155	343,783,148
借入金等利息支出	7,234,305	4,456,383	3,534,268	4,861,889	3,962,124
借入金等返済支出	149,200,000	157,600,000	120,000,000	140,426,000	148,792,000
施設関係支出	168,227,426	125,519,440	119,731,071	1,026,994,798	258,051,310
設備関係支出	120,424,368	201,295,490	150,343,932	112,742,669	162,930,370
資産運用支出	6,695,518	7,345,588	6,335,638	205,241,504	407,307,397
その他の支出	350,572,611	369,656,304	494,049,932	581,238,343	592,466,177
資金支出調整勘定	-358,528,400	-462,218,003	-497,930,256	-579,317,092	-666,872,435
翌年度繰越支払資金	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514	2,907,757,392
支出の部合計	6,537,274,930	6,679,229,351	7,050,102,705	8,148,629,188	8,107,859,564

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入	4,442,010,469	4,544,976,594	4,702,961,514	4,683,467,887	4,799,124,400
教育活動資金支出	3,881,456,290	4,002,981,736	3,979,170,281	4,037,431,563	4,293,465,229
差引	560,554,179	541,994,858	723,791,233	646,036,324	505,659,171
調整勘定	165,380,873	-87,386,340	48,628,719	-73,300,103	-22,323,438
教育活動資金収支差額	725,935,052	454,608,518	772,419,952	572,736,221	483,335,733
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入	21,117,000	12,530,000	1,660,000	468,094,780	544,726,410
施設整備等活動資金支出	288,651,794	326,814,930	270,075,003	1,339,737,467	822,482,651
差引	-267,534,794	-314,284,930	-268,415,003	-871,642,687	-277,756,241
調整勘定	-36,248,640	6,834,503	24,094,686	-232,997,580	211,189,239
施設整備等活動資金収支差額	-303,783,434	-307,450,427	-244,320,317	-1,104,640,267	-66,567,002
小計	422,151,618	147,158,091	528,099,635	-531,904,046	416,768,731
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入	14,374,305	91,351,663	6,004,232	626,578,504	36,369,316
その他の活動資金支出	164,145,866	177,910,153	131,828,441	150,532,783	164,390,169
差引	-149,771,561	-86,558,490	-125,824,209	476,045,721	-128,020,853
調整勘定	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	-149,771,561	-86,558,490	-125,824,209	476,045,721	-128,020,853
支払資金の増減額	272,380,057	60,599,601	402,275,426	-55,858,325	288,747,878
前年度繰越支払資金	1,939,612,755	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514
翌年度支払資金	2,211,992,812	2,272,592,413	2,674,867,839	2,619,009,514	2,907,757,392

③事業活動収支計算書関係

事業活動収入（以前の帰属収入）では、前年対比7百万円の減少で4,950百万円、事業活動支出は前年対比143百万円増加となり5,071百万円、基本金組入前当年度収支差額（以前の帰属収支差額）は29百万円の収入超過が121百万円の支出超過となった。

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

科 目	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
事業活動収入の部					
学生生徒納付金	3,427,286,880	3,551,969,820	3,635,715,280	3,638,694,620	3,664,094,460
手数料	84,964,480	104,958,131	86,888,423	81,208,219	73,848,165
寄付金	31,412,861	32,834,000	75,908,354	19,983,000	23,364,929
経常費等補助金	768,077,680	652,225,300	788,972,020	815,197,426	800,511,508
付随事業収入	48,619,868	29,815,158	38,983,985	30,160,893	66,547,193
雑収入	136,916,795	213,401,433	93,602,907	98,223,729	207,148,236
教育活動収入計	4,497,278,564	4,585,203,842	4,720,070,969	4,683,467,887	4,835,514,491
事業活動支出の部					
人件費	2,459,623,575	2,512,506,990	2,375,158,919	2,486,408,072	2,557,055,276
教育研究経費	1,597,482,755	1,633,764,139	1,819,482,692	1,710,223,726	1,958,929,854
管理経費	421,761,906	451,994,764	397,328,733	474,721,685	386,124,828
徴収不能額等	0	0	1,197,000	0	0
教育活動支出計	4,478,868,236	4,598,265,893	4,593,167,344	4,671,353,483	4,902,109,958
教育活動収支差額	18,410,328	-13,062,051	126,903,625	12,114,404	-66,595,467
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	1,343,445	1,351,663	1,255,682	1,151,374	1,041,046
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	1,343,445	1,351,663	1,255,682	1,151,374	1,041,046
事業活動支出の部					
借入金等利息	7,234,305	4,456,383	3,534,268	4,861,889	3,962,124
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	7,234,305	4,456,383	3,534,268	4,861,889	3,962,124
教育活動外収支差額	-5,890,860	-3,104,720	-2,278,586	-3,710,515	-2,921,078
経常収支差額	12,519,468	-16,166,771	124,625,039	8,403,889	-69,516,545
事業活動収入の部					
資産売却差額	10,000	0	0	780	220,000
その他の特別収入	38,376,516	22,902,468	4,673,402	272,452,153	113,638,158
特別収入計	38,386,516	22,902,468	4,673,402	272,452,933	113,858,158
事業活動支出の部					
資産処分差額	271,779	6,097,300	2,759,275	251,467,871	164,938,108
その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	271,779	6,097,300	2,759,275	251,467,871	164,938,108
特別収支差額	38,114,737	16,805,168	1,914,127	20,985,062	-51,079,950
基本金組入前当年度収支差額	50,634,205	638,397	126,539,166	29,388,951	-120,596,495
基本組入額合計	-86,770,165	-70,162,797	-45,867,727	-469,315,029	-11,537,233
当年度収支差額	-36,135,960	-69,524,400	80,671,439	-439,926,078	-132,133,728
前年度繰越収支差額	-10,188,441,598	-9,852,251,951	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420
基本金取崩額	372,325,607	33,583,067	129,392,503	0	119,130,866
翌年度繰越収支差額	-9,852,251,951	-9,888,193,284	-9,678,129,342	-10,118,055,420	-10,131,058,282
(参考)					
事業活動収入計	4,537,008,525	4,609,457,973	4,726,000,053	4,957,072,194	4,950,413,695
事業活動支出計	4,486,374,320	4,608,819,576	4,599,460,887	4,927,683,243	5,071,010,190



イ) 財務比率の経年比較

		平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
人件費比率	人件費/経常収入	55%	55%	50%	53%	53%
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	72%	71%	65%	68%	70%
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	36%	36%	39%	37%	41%
管理経費比率	管理経費/経常収入	9%	10%	8%	10%	8%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 /事業活動収入	1%	0%	3%	1%	-2%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	76%	77%	77%	78%	76%
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	0%	0%	3%	0%	-1%

(2) その他

①有価証券の状況

種 類	当年度(令和5年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	201,497,000	198,320,000	△ 3,177,000
株式	508,800	1,271,520	762,720
投資信託	200,000,000	197,157,821	△ 2,842,179
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	402,005,800	396,749,341	△ 5,256,459
時価のない有価証券	1,000,000		
有価証券合計	403,005,800		

②借入金の状況

借入先	期末残高	利率	返済期限
日本私立学校振興・共済事業団	7,380,000	2.00%	令和6年3月
三井住友銀行	203,400,000	0.37%	令和9年4月
埼玉りそな銀行	420,307,000	0.35~0.88%	令和9年4月~ 令和11年3月

③学校債の状況

該当なし

④寄付金の状況

学生生徒・保護者、後援会、PTA、浄土宗	41,367,000
教育研究振興協力寄付金(企業)	7,997,929
合 計	49,364,929

⑤補助金の状況

国 庫 補 助 金	教育関係	314,113,300
	施設整備関係	47,267,000
	合 計	361,380,300
地方公共団体補助金	教育関係	486,398,208
	施設整備関係	1,526,000
	合 計	487,924,208

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

役員・法人等の名称	資本金又は出資金	事業内容または職業	関係内容	取引の内容
松川 聖業	-	-	-	銀行等借入に対する根保証
緒方 延泰	-	弁護士	顧問弁護士	弁護士報酬

⑧学校法人間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人における大きな収入源である学生生徒納付金においては、近年の安定した学生募集により順調に推移してきていたが、令和5年度入試においては入学定員を下回る入学者となった。学生の確保は学校法人において安定した収入を得るための最重要課題であるため、収入と支出のバランスを考慮しつつ、新型コロナの影響が少なくなった環境において学生や志願者から理解を得られる教育活動のあり方を模索・実施をしていきたい。しかし、収入の大部分を学生生徒納付金と補助金に依存している状況はまだまだ改善の余地がある。これからは、収入財源の多角化を目指し、学園が進めている教育研究をアピールし、受託研究・寄付金の獲得を進めたい。

今後の課題としては、未だ施設設備の更新が進んでいないところもあり、将来を見据えた教育研究機関としての大学の施設設備を再考し、そのための予算の計画を立てたい。今まで以上の業務全般について効率化を図り経費削減を行い、安定したキャッシュフローを獲得したい。